

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 平和の聖母

1 法人理念および基本方針

法人理念

かけがえのない尊厳ある人が集い、共に安らかに暮らし、共に学び成長し、共に働き喜び、聖母マリアのようにカトリックの愛の精神に根ざした社会福祉の開花を目指します。

基本方針

1. 私たちは、一人ひとりの可能性と持てる力に応じた暮らしを支援し、家庭生活と社会生活のあらゆる面への参画に共にチャレンジします。
2. 私たちは、人と人との交わりや助け合いを通して、自己と他者が共に成長していく社会福祉の仕事に誇りを持ち、感謝します。
3. 私たちは、より効果的で人道的な経営を探求し、地域福祉を展開することで、広く共通善に貢献します。

平和の聖母の祈り

わたしたち法人の名前をいただいた平和の聖母
人と人との平和を目指し
わたしたちがつねに
苦しむ方々、悲しむ方々、社会的に弱い立場の方々に心を合わせ
平和のために奉仕することができますように
また、わたしたち自身も
弱さのうちに生きる者であり、平和の聖母のご保護のうちに
歩み続けていくことができますように

2 令和元年度事業報告における総括

令和元年度は平成から令和への改元の年であったが、新年度を迎えようというその時期に世界中が新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われるという大変な1年になった。我々福祉業界だけでなく社会全体に、今後の生活環境・働き方・生き方を再考せざるを得ない大きな課題を突き付けた。社会福祉の仕事は人と人が接していかなければならない業種であり、在宅ワークやテレワークが不可能な業態であるため、引き続きこの問題には全力で取り組んでいく必要がある。とはいえ、法人内の職員および利用者等からは感染報告もなく、結果として経営的には令和元年度は順調な決算を迎えることが出来た。社会福祉法人に対しては、内部留保への批判も厳しいが、このような想定外の社会情勢になるとしっかりとした財務基盤がなければ、経営的に厳しい状況に陥ることが容易に予想できる。今後も適正な経営努力を怠らないようにし、本法人が目指すカトリックの愛の精神に根差した、社会福祉事業および地域福祉を展開していく。それらを踏まえ、以下を令和元年度事業報告とする。

3 令和元年度事業報告における重点項目

(1) 働き方改革と消費税増税に向けた対応

働き方改革関連法について、本法人は中小企業に該当するため、今年度は年5日の年次有給休暇の適正な把握と確実な取得について取り組んだ。職員毎に付与日が違うため、特に計画的付与制度を使う必要もなく、これまで一部の職員に偏りがあった有給休暇の取得についてバランスよく取れるきっかけになったと思う。労働時間の適正な把握については、勤怠管理システムの選定と機器の準備まで出来ており、導入は次年度に行うことになった。消費税増税については、就労支援事業が課税収入であるため従前より納税義務のある法人であったが、増税による経費の上昇に加え、昨今の人材不足から実質の人件費にあたる厨房労務委託費用を増額せざるを得ない状況となった。現在、簡易課税方式で納入している消費税は、施設整備を行うときには本則課税が有効であることから、税理士等専門家の意見を聴きながら適切に選択していく。

消費税納税額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	481,600	521,300	551,300

(2) 新たな事業展開に向けた準備

現在、本法人が運営している認知症高齢者グループホームメゾンマリアは定員18名に対し、入居待機者45名と非常に地域社会の期待の大きな事業であると言える。申し込み希望者は久留米市内の校区等に関係なくサービス質の高さや、医療機関の充実、交通の便、建物の機能・設備等を総合的に判断して当施設を選んであるため、今後も法人の次の選択肢として、新たな施設整備の候補地として津福本町近隣の土地の購入検討を考えておきたい。また、地域の訪問看護ニーズも高く、経営的にも安定する理由から、次年度以降に訪問看護事業所の開設を選択肢の一つとして検討することになった。

(3) インクルーシブな障がい者雇用の推進

法定雇用障がい者の算定の基礎となる労働者の数64.5人に対し、雇用保険加入障がい者の数3名でハローワークに届け出た令和元年度の雇用率は4.65%であった。障がい者雇用のスタッフは元々「共に働く場まちづくりワークショップマリア」で働いていた就労継続支援B型事業の利用者が多くを占めることもあり、職員としての自覚が足りなかったことから既存の生活介護利用者とトラブルになり、退職してしまうということもあった。障がい者雇用のスタッフもこれまでの利用者とは違うという意識をあらためて持つ必要がある。高齢者の雇用人数も年々増加傾向にあり、貴重な戦力になっていることは明らかであった。

障がい者雇用状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
雇用率	2.99%	3.23%	4.65%

高齢者雇用状況

年齢	平成29年度	平成30年度	令和元年度
60～64	6人	6人	8人
65～69	2人	1人	2人
70～	2人	2人	3人

(4) 災害時の要配慮者支援のための人材育成

大規模災害発生を想定したBCP（事業継続計画）の策定研修を行った。大規模災害時には利用者だけでなく、職員やその家族も災害に見舞われることが容易に想像できる。そのため大前提として自分自身の命とその家族の身を守ることを最優先した後、施設まで来るのにどれくらいの時間が掛かるのかをそれぞれシミュレーションした。災害を具体的に想定することで、初動対応のイメージが出来る研修となった。また、災害時の対応はすべて出勤として取り扱い時間外労働として取り扱うことも周知した。今後、研修を重ねることで様々な非常災害のイメージをしていく必要がある。新型コロナウイルス感染症の発生は、現時点では福祉施設での対応が難しいと考えられるため、次年度以降の課題とする。

(5) 広報ツールの見直し

パンフレットの作成とスマートフォンに対応したホームページの作成に取り組んだ。年度内の完成には至らなかったが今後、福岡県の感染状況を確認しながら、業者と打ち合わせを進めていく。既存のホームページだけでなくTwitterはリアルタイムに呟くことが出来るため、各種イベントの際にもスマートフォン等から発信することで、より臨場感のある広報が出来た。

(6) 地域貢献活動の推進

福岡県社会福祉法人経営者協議会が行うふくおかライフレスキュー事業のサポーター養成研修に職員を参加させた。ウエルフェアマリアではペタンク大会を開催し、過去最高の参加人数で盛り上がった。ウエルカムメゾンマリアプロジェクトは子ども食堂メゾンマリアキッズクラブを始めとして、新たな活動として「ひまわりサロン」「漢検クラブ」や既存の「ゆうゆうサロン」等を充実させた。子ども食堂においては開設初期のメンバーが6年生で卒業しようかという時期に新型コロナウイルス対策から、当面延期せざるを得ない状況となった。今後も国や地方自治体の情報等を把握し、再開の時期を検討していきたい。

実施月	名称	取組内容	実施場所
毎月	メゾンマリアキッズクラブ	無償で行う地域子ども食堂	メゾンマリア
4月	メゾンマリアバザー	地域向けバザー	メゾンマリア
8月	水の祭典・そろばん踊り	地域活性化の取り組み	久留米市
6月	認知症サポーター養成講座	地域向け講習会	メゾンマリア
8月	花火を見る会	花火大会への障がい者の参加支援	久留米市
10月	久留米工業大学愁華祭	大学との交流	久留米工業大学
10月	上津校区文化祭	地域との交流	上津公民館
11月	聖マリア学院祭	大学との交流	聖マリア学院
11月	のぞえペタンク大会	地域との交流	ウエルフェアマリア
12月	クリスマス会	地域住民	メゾンマリア
毎月	スペシャルオリンピクス自販機の設置	一部売上金の寄附	久留米市
毎月	SELP自販機の設置	一部売上金の寄附	ウエルフェアマリア
随時	ふくおかライフレスキュー事業	地域活性化の取り組み	地域
毎月	くるめクリーンパートナー事業	近隣の清掃	上津町・津福本町
毎月	ゆうゆうサロン	地域活動	メゾンマリア
随時	おしゃべり会	地域活動	メゾンマリア
随時	ひまわりサロン・漢検クラブ	地域活動	メゾンマリア
毎月2回	中学生学習支援	金丸校区中学生	メゾンマリア

3 各事業における重点項目

(1) 障がい者支援施設ウエルフェアマリア

今年度は、共に働く場まちづくりワークショップマリアを本体施設に集約する事でマンパワー不足を補い、あわせて最新のオンデマンド印刷機を導入した。外出行事や日帰り旅行を多く企画し、年初から事業展開の盛り上がりが見られた。職員採用においては一定数の採用はあったものの、ベテラン職員の離職等もあり、人材育成の困難さを実感する1年であった。高齢化や重度化の進む利用者支援の充実に向けた取り組みや、職員の自発的な企画や支援の取り組みは一定の成果が得られたが、入所支援施設の役割である重度障がい者や医療的ケアの必要な利用者の受け入れが出来るところまでは至っていない。高齢障がい者のターミナルケア等においては、受診等にできるだけ足を運ぶことで関わる時間を取り、できる限りの支援を提供した。それらの光景を見ていた他の利用者や家族からは安心感や信頼感を持っていただけると感じた。また、下半期に入院者が増加したが、退院された後は体調面や医療面での改善がなされ、より良い生活が送れるような支援にシフトできた。最重要項目であった言葉遣いや職員間のマナーにおいては未だ出来ているとは思えず不十分な結果となり、大いに反省し、次年度も引き続き取り組むことになった。

ウェルフェアマリア施設入所 延べ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	13,862	14,157	14,207

ウェルフェアマリア短期入所 延べ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	343	411	207

ウェルフェアマリア生活介護 延べ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	13,593	13,615	13,100

ウェルフェアマリア施設入所 平均年齢

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
男(歳)	60.0	62.0	62.7
女(歳)	56.0	62.2	63.2

ウェルフェアマリア通所 平均年齢

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
男(歳)	46.0	46.0	49.1
女(歳)	42.6	43.9	45.9

ウェルフェアマリア特定相談支援 利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
計(人)	47	65	82
モ(人)	50	46	71

就労支援事業収益

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	17,627,870	18,354,495	16,568,369

サービス活動収益 ウェルフェアマリア施設入所

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	85,223,935	91,444,683	91,162,495

サービス活動収益 ウェルフェアマリア生活介護

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	141,555,026	146,301,365	142,924,409

サービス活動収益 ウェルフェアマリア特定相談支援

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	1,307,250	1,927,510	2,140,180

(2) ケアハウスメゾンマリア

例年よりも入退居ケースが増加したが、待機者管理を整備し満床での稼働を維持できた。退居者の移行先についても、併設事業を始め各関係機関と情報共有することで、当該入居者の選択肢も拡がり、スムーズに確保することができた。退居要因として最も多いのが、心身機能の低下による自立生活の維持困難である。このことは、入居者全体の不安要素となっているため、具体的な情報提供、事前の意向調査を定期的実施することで、支援全体の充実化に繋げる。また、施設運営に係る費用面では、設備の経年劣化や厨房委託費の増加が懸念事項であるため、既存の積立金を柔軟に活用しつつ、支出管理を拠点単位で意識し収支バランスの安定化を図る。

3年を経過した地域貢献に関する分野では、新たな活動として「ひまわりサロン」を開始した。地域と入居者の交流によって、幅広い世代が共通の目的を持って集う場となった。このことは、入居者の役割創出の機会にもなり、「キッズクラブ」や「ゆうゆうサロン」等の既存活動の今後の充実化にも繋がると思われる。今後も継続し、法人内での地域貢献活動の中心的役割を担っていく。

ケアハウスメゾンマリア 初日利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	600	600	600

ケアハウスメゾンマリア施設入所 平均年齢

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
男(歳)	84.1	84.1	87.2
女(歳)	84.9	84.9	84.7

サービス活動収益 ケアハウスメゾンマリア

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	90,726,800	91,265,797	90,187,986

(3) デイサービスセンターメゾンマリア

前年度実績を省み、新規利用者獲得に向けて営業活動の強化と柔軟な受け入れ体制を構築した。それにより、新規利用者が大幅に増加し、年間を通して安定した稼働状況を維持できた。一方、もう一つの課題であるサービスの差別化への取り組みは十分とは言えず、理学療法士等の専門職の特性も活かしていない状況である。そのため、まずはニーズ把握の頻度を上げ、それを反映させたサービスプログラムに随時更新する。また、軽度者から重度者までの受け入れは一つの強みであるため、今後も継続し安定した利用者確保に繋げる。地域包括ケアが推進される中、通所介護の重要度は増している。利用者に限らず家族や生活環境等、支援の対象は多様化しているため、スムーズに対応できるよう業務の一部のICT化を進める。

デイサービスセンターメゾンマリア 延べ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	7,122	6,369	7,304

デイサービスセンターメゾンマリア 平均年齢

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
男(歳)	79.0	83.8	83.3
女(歳)	85.4	85.1	85.6

サービス活動収益 デイサービスセンターメゾンマリア

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(円)	56,718,966	50,296,281	58,760,399

(4) メゾンマリアホームヘルプサービス(訪問介護・障がい福祉サービス)

消費増税10%に伴う介護報酬改定では、移行準備を徹底しスムーズに対応できた。一方、事業実績については、慢性的な人員不足やサービス提供責任者を安定して配置できず、前年比マイナスとなった。利用ニーズはあることから、まずはサービス提供責任者の配置を増員し、サービス提供の安定化を図りつつ、配置加算も算定し収支状況の改善を図る。

また、新任のサービス提供責任者の経験不足が課題であるため、育成にも並行して取り組む。今後の方針として、障がい福祉サービスへの更なる移行も検討している。それを踏まえ、多様なケースの実務を積み重ねると共に、各障がい分野の理解を重視した教育研修を推進する。同時に、既存職員へは加算算定に沿った研修実施が必須であるため、明確な目標を掲げることでモチベーションアップにも繋げる。加えて、併設事業との一体的なサービス提供は、事業所の強みでもあるため、その継続によって人材面、運営面の両面を充実させる。

メゾンマリアホームヘルプサービス のべ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人	4,693	3,980	3,797

メゾンマリアホームヘルプサービス 平均年齢

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
男(歳)	79.2	76.1	77.4
女(歳)	88.5	83.2	84.7

メゾンマリアホームヘルプサービス（障がい） のべ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	1,004	657	424

メゾンマリアホームヘルプサービス（移動支援） のべ利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	34	48	41

サービス活動収益 メゾンマリアホームヘルプサービス

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額（円）	14,566,160	12,055,656	10,999,641

サービス活動収益 メゾンマリアホームヘルプサービス（障がい）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額（円）	3,848,320	2,733,540	2,289,800

（5）メゾンマリアケアサポート

ここ数年の新規利用者は、地域包括支援センターからの依頼が主であり、かつ困難事例の受入依頼が増加している。事業所の方針として、基本的にはあらゆるケースを受け入れており、例年に比べ延べ利用者数は確保できた。ただし、基本報酬自体が十分とは言えず、利用者数の増加自体が安定した事業運営に直結していない状況である。その分、併設事業への紹介等、包括的な支援展開に重きを置きながら、拠点全体の事業実績向上に繋げる。

指定更新に伴う現地確認及び実地指導では、実務内容等は適正との評価を得たが、主治医へのケアプラン報告の未実施等が指摘事項として挙げられた。早急に改善することで、制度理解とスキルアップの機会とした。また、実務者1名が主任介護支援専門員を取得した。その過程において、多様な支援展開の必要性を再認識することができた。資格取得により、今後は地域とより密接に関わることが求められる。それを踏まえ、複雑化する地域課題についても率先して関わり、地域貢献面においても一定の役割を果たす。

メゾンマリアケアサポート 利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	751	774	802

サービス活動収益 メゾンマリアケアサポート

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額（円）	7,256,520	7,886,680	8,024,590

（6）グループホームメゾンマリア

事業運営では安定した稼働状況を維持でき、結果として前年比微増となった。ただし、退居ケース後の受け入れがスムーズでなかった状況もあったため、早急に手順をマニュアル化し、全職員が関われる体制を構築することで、空室日数を抑えた稼働率に繋げる。また、サービス満足度アップに向け、アンケート結果をもとに、外出支援の充実化を図った。短時間の散歩や買い物の頻度を増やし、家族も交えた「夢実現プロジェクト」に継続して取り組んだ。実務面では、職員の経験年数によってケアの実践内容に差異が生じている場面もあるため、内部及び外部研修の充実化、職員個々への技術教育の頻度を高める。看取り支援では、その方らしい最期に向け、家族の心情や意向も汲み取りながら関わることを意識した。看取り支援を経て、ユニット単位でケアを振り返る機会を随時設け、課題と成果を共有することで今後の看取り支援の充実化に繋げることにした。

グループホームメゾンマリア 利用者数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人数	216	215	214

サービス活動収益 グループホームメゾンマリア

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額（円）	81,518,730	81,631,438	83,113,840

4 法人運営

(1) 理事会の開催

実施月	議案等	出席者
6月3日	①平成30年度事業報告（議決数／過半数） ②平成30年度決算（議決数／過半数） ③平成30年度監事監査報告（報告事項） ④平成30年度社会福祉充実残額の算定結果の報告（報告事項） ⑤理事長の職務の執行状況報告（報告事項） ⑥諸規程の変更（議決数／過半数） ⑦令和元年度定時評議員会の日時・場所及び議題等（議決数／過半数） ⑧任期満了に伴う理事・監事候補者の推薦（議決数／過半数）	理事6 監事2
6月21日	①理事長の選定（議決数／過半数） ②平成30年度社会福祉充実残額の算定結果の報告（報告事項）	理事6 監事2
12月12日	①中村学園事業部との厨房労務委託契約（報告事項） ②理事長の職務執行状況の報告（報告事項） ③指定居宅介護支援事業所への実地指導結果（報告事項） ④令和元年度第一次補正予算（積立金の取崩）（議決数／3分の2以上） ⑤諸規程の変更（議決数／過半数） ⑥第1回臨時評議員会の日時・場所及び議題等（議決数／過半数）	理事6 監事2
3月19日	①理事長の職務の執行状況報告（報告事項） ②令和元年度第二次補正予算（議決数／3分の2以上） ③令和2年度事業計画（議決数／3分の2以上） ④令和2年度資金収支予算（議決数／3分の2以上） ⑤定款の変更（議決数／過半数） ⑥諸規程の変更（議決数／過半数） ⑦第2回臨時評議員会の日時・場所及び議題等（議決数／過半数）	理事6 監事2

(2) 評議員会の開催

実施月	議案等	出席者
6月21日	①平成30年度事業報告（報告事項） ②平成30年度決算（議決数／過半数） ③平成30年度監事監査報告（報告事項） ④平成30年度社会福祉充実残額の算定結果の報告（報告事項） ⑤任期満了に伴う理事・監事の選任（議決数／過半数）	評議員7 理事2 監事2
12月20日	①中村学園事業部との厨房労務委託契約（報告事項） ②指定居宅介護支援事業所への実地指導結果（報告事項） ③令和元年度第一次補正予算（議決数／過半数） ④働き方改革関連法に対応するための今後の報告性（報告事項）	評議員7 理事2 監事2
3月27日	①令和元年度第二次補正予算（議決数／過半数） ②令和2年度事業計画（議決数／過半数） ③令和2年度資金収支予算（議決数／過半数） ④定款の変更（議決数／3分の2以上） ⑤新型コロナウイルス感染症の発生に伴う社会福祉法人の運営に関する取扱いについて（報告事項）	評議員6 理事2 監事2

(3) 監事監査

実施月	内容	開催地	出席者
5月29日	平成30年度決算に係る監事監査	メゾンマリア	監事

(4) 苦情解決第三者委員会報告会

実施月	内容	開催地	出席者
10月10日	苦情解決第三者委員会報告会	メゾンマリア	第三者委員

(5) 法人運営管理委員会

実施月	内 容	開催地	出席者
毎月	法人運営管理委員会	メゾンマリア	運営管理委員

(6) 法人事務

日時	内 容	場 所	応対者
6月27日	資産総額変更登記	福岡法務局	事務局長
6月27日	理事長重任登記	福岡法務局	事務局長
6月28日	財務諸表公表制度書類アップデート	オンライン	事務局長
7月1日	福祉医療機構事業報告	オンライン	事務局長
7月9日	公益法人等の損益計算書等の提出	久留米税務署	事務局長
7月29日	障害福祉サービス等情報公表の提出	オンライン	事務局長
8月8日	目的等変更登記	福岡法務局	事務局長

5 経営指標**(1) サービス活動収益**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	482,032,591	485,136,680	489,218,440

(2) 人件費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	249,025,746	252,161,890	258,348,927

(3) 事業費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	65,955,730	64,480,503	61,151,697

(4) 事務費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	66,430,191	74,089,023	74,550,686

(5) 減価償却費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	61,447,761	61,872,291	52,954,987

(6) 国庫補助金等特別積立金取崩額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	△32,477,331円	△32,253,291円	△25,910,037円

(7) 支払利息

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	1,505,657	1,312,646	1,110,640

(8) 経常増減差額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	68,559,066	48,021,250	55,624,094

(9) 事業活動資金収支差額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	97,387,746	78,986,031	80,091,763

(10) 資産総額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	1,421,639,885	1,435,455,617	1,465,169,668

(11) 社会福祉充実残額

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	△302,510,000	△272,270,000	△233,830,000

(12) 厨房労務委託費

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額 (円)	32,127,840	34,201,440	37,206,120